

ICTユニットの概要

- 「ICTユニット」は災害時に被災地へ搬入して迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。
- 東日本大震災での教訓を踏まえて、総務省がNTT等に委託して研究開発を実施(H23~25年度)し、H26年11月に実用化。
- 被災地における必要な通信手段の確保及び支援のため、自治体等からの要請に応じて、貸し出しを実施。

<機器構成>

バッテリー※



(容量：50,000mAh)
(重量：約1.3kg)

ユニット本体 (IP電話用構内交換機、 情報処理サーバ)



(PCボードで内蔵)
(重量：約300g)

Wi-Fi アクセス ポイント



(重量：約100g)

ゲートウェイ (外線と接続用) ※



(重量：約500g)

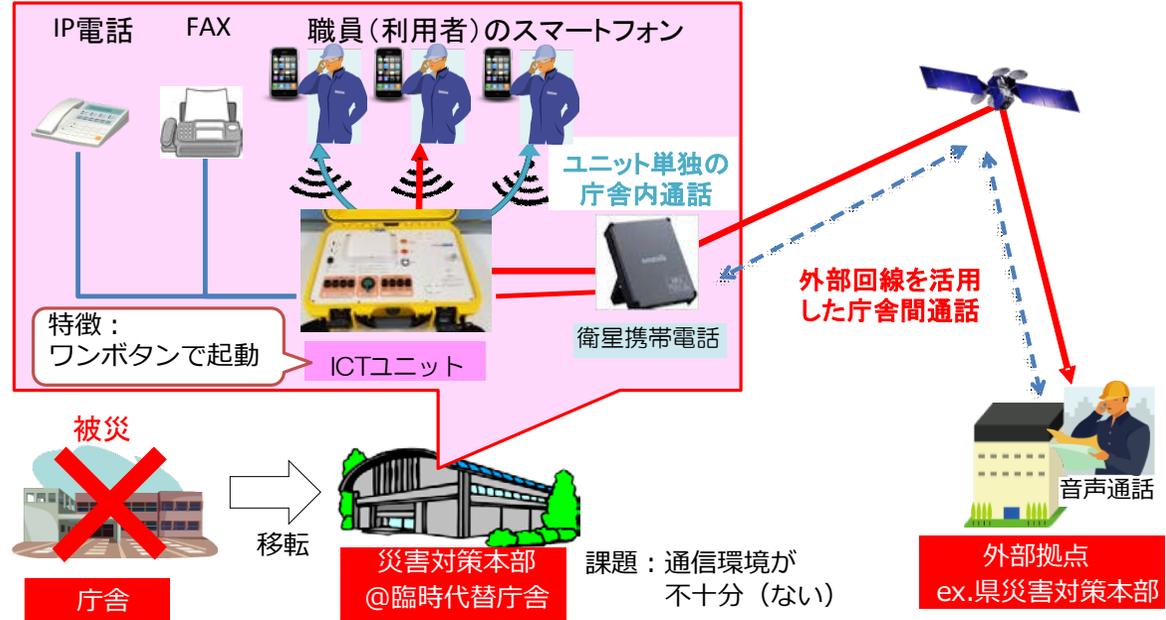
その他(電源制御回路、ケーブル) ※

重量合計：
約6.5kg程度

※防水ケースに格納



<利用イメージ>



【ICTユニットの特徴】

- 1) アタッシュケースとして持ち運びが容易であり、簡単に利用開始が可能
梱包のバッテリー1本(50,000mAh)で連続8時間使用可
- 2) 普段使っている携帯電話番号でICTユニットのWi-Fi通信エリア内(直径100m)の利用者同士でWi-Fiを介した音声通話・ファイル共有が可能
- 3) 衛星携帯電話やアナログ電話回線、FTTH等の外部通信路と接続することで、普段使っている携帯電話番号で遠隔地との音声通話(着信含む)も可能

※) ICTユニットから音声通話用のスマートフォンアプリをダウンロードし、起動することにより、スマートフォンの電話番号をICTユニット内の通信での内線番号として利用可能。

ICTユニットの利用方法1

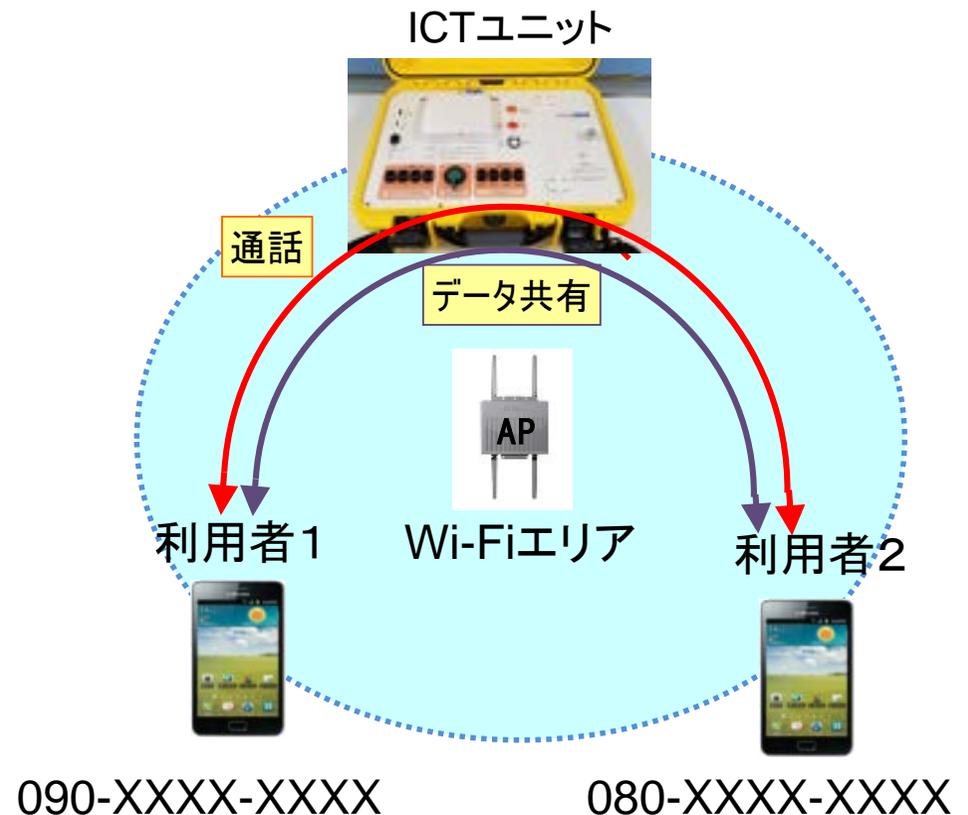
①起動・停止

- ・ボタン操作で簡単に起動・停止
- ・衛星携帯電話等の外部回線と配線するだけで直ぐに利用可能



②内線通話 & ファイル共有

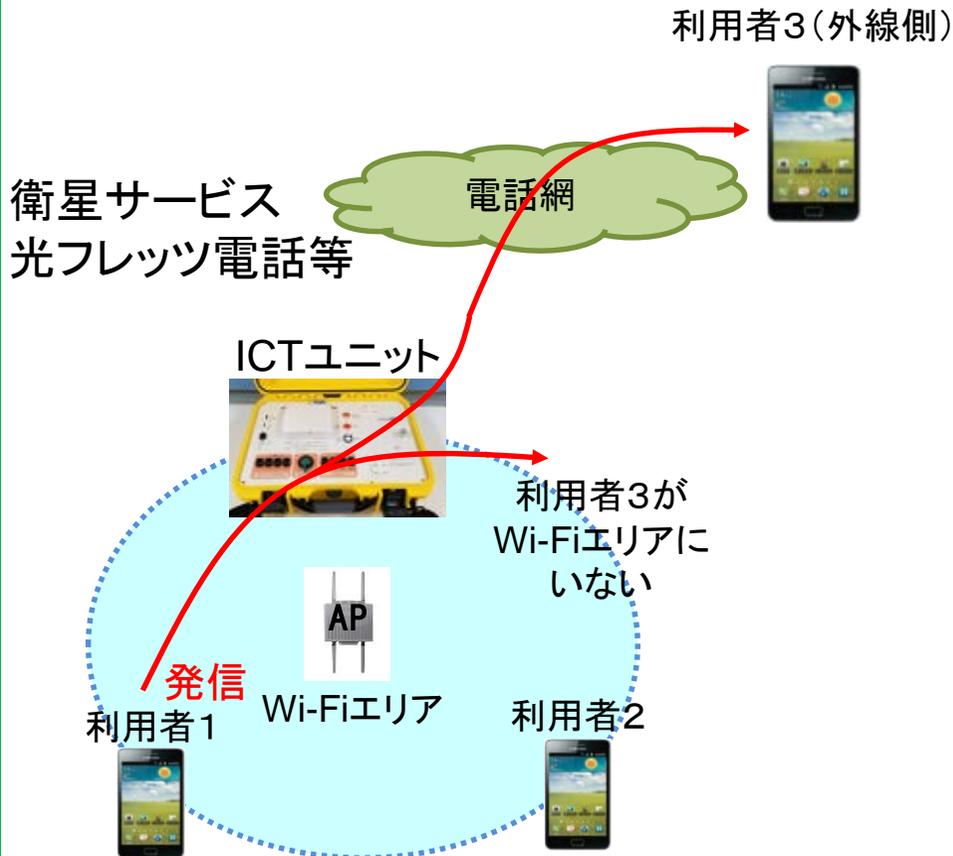
- ・普段使っている電話番号のまま通話可能
→既存アドレス帳から選んで発信も可能
- ・ICTユニットのファイル共有サーバにアクセスすることでデータの共有が可能



ICTユニットの利用方法2

③外線通話(発信)

外部回線を接続すれば外線発信可能
→エリア内にいなくても通話可能
いつもの携帯電話と同じ感覚で通話



③外線通話(着信)

外部着信は2段階で着信
音声案内で希望の相手に誘導

